



優秀賞

佐賀県遊技業協同組合 「児童養護施設支援」事業



佐賀県遊技業協同組合 理事長
森孝輝さん

児童養護施設の子どもたち全員に クリスマスプレゼントを贈る

県内のすべての児童養護施設が対象

佐賀県には、昨年度時点で6ヵ所の児童養護施設がある。さまざまな事情によって、親と離れて暮らすことを余儀なくされた子どもたちの数は、およそ250人余り。佐賀県遊技業協同組合(以下、佐遊協)では、地域社会への貢献を目的とする事業の一環として、昨年12月、佐賀県下のすべての児童養護施設を訪問し、入所する全児童・生徒にクリスマスプレゼントを贈った。プレゼントの内容は、図書カード2000円分と、1000円(2000円相当分)のお菓子の詰め合わせをクリスマス用にラッピングしたものである。

佐遊協が、この事業をスタートしたのは2006年のことで、当初の3年間は1施設ずつにとどまっていたが、2009年度からは全6施設に規模を拡大した。長く施設で暮らす子どもたちも少なくなく、今ではそんな子どもたちから毎年のクリスマスシーズンに贈られる楽しいプレゼントとして期待されている。

理事長以下の役員がクリスマスプレゼントを携えて施設を訪問する様子は、地元のSTS佐賀テレビやNBCラジオなどで放送され、また、西日本新聞、佐賀新聞、朝日新聞などの新聞各紙にも写真入りで掲載され、広く県民の衆知するところとなっている。

たとえば昨年12月16日付の西日本新聞の記事では、嬉野市の済昭園を訪れた模様が以下のように紹介された。「済昭園では、幼児から高校生まで42人が家庭の事情で親元を離れて暮らす。この日、赤い帽子をかぶった理事たちが菓子の詰め合わせを手渡すと、子どもたちは『やった』『何が入っているかな』と喜んでた。1人2千円分の図書券も施設側に託した」(記事一部抜粋)。

子どもたちの笑顔や手紙から元気をいただく

この活動に対し、各施設からは心温まる感謝の礼状が寄せられているが、子どもたちからの直筆のお礼の手紙

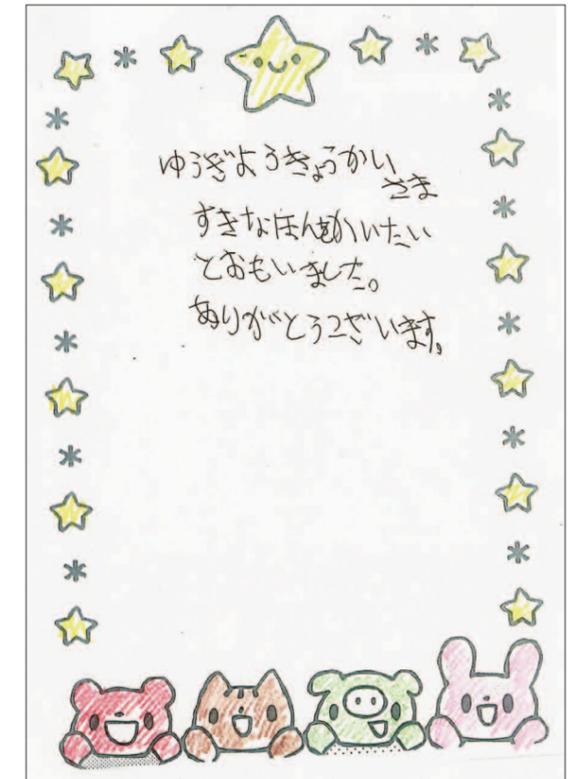


子どもたちにクリスマスプレゼントを渡す森孝輝理事長らの役員。
子どもたちは目を輝かせて嬉しそうな表情を浮かべる

は、何にもまして佐遊協のスタッフの喜びとなっている。その1通を紹介しよう。

「遊技業様 私たちのためにたくさんのお菓子と図書券を寄贈して頂き、ありがとうございます。皆、お菓子を見て喜んでいました。今年中には食べられそうにないですが、おいしく頂きます。図書券は2000円分もあるので、大切に使用させていただきます。そして日々の生活や勉強に一生懸命取り組み、頑張っていきたいと思えます。皆様もお体に気を付けて色々なことに挑戦して、これからも頑張ってください」

こうした手紙を読むにつけ、あるいは訪問したときの子



子どもたちから送られた手紙は佐遊協スタッフの喜びの種となっている

どもたちの喜ぶ顔を見るにつけ、むしろ元気づけられているのは自分たちであるという共通認識のもと、佐遊協では今後も全施設への支援を継続事業として取り組むことにしている。

なお、佐遊協では、そのほかにも社会活動支援事業に積極的に取り組んでおり、たとえば11年度は、「暴力追放・防犯活動支援事業」、「警察捜査活動支援事業」、「広報活動支援事業」(新聞折り込み広告や各ホールののぼり旗、電光掲示板などを活用した広報支援)などを行った。今後も地域に密着した社会貢献策を推進していく決意である。